

適用

自分の地域と学習した内容を関係付け、考察することができる。

1 単元名 流れる水のはたらき (第5学年)

2 指導のねらい

川原の石の様子には、場所によって違いがあることを理解し、場所による違いを日常生活に適用して考察することができるようにする。

3 実践の内容

5 学年「流れる水のはたらき」【全12時間】(本時2 / 12時)

第一次 (3時間)

【学習活動】

- ① 写真を見て流れる水のはたらきについて話し合う。
- ② 川の上・中・下流の地形と川や川原の石の様子の違いについて話し合う。
- ③ 川原の石の様子の違いを理解し、考察することができる。

(1) 本時の学習の流れ

- ① 前時の活動を振り返り、問題を把握する。
- ② 問題に対する予想を考え、発表する。
- ③ 予想をもとに、グループで話し合いをし、自分の考えをノートに記述する。【適用】
- ④ グループごとに話し合いの結果を発表し、全体でまとめる。【適用】

(2) 授業の実際

問題

一辺が30cmの板の上に、つけもの石を置きたいと思います。どの場所に行けば、板に合う石がたくさん見つかるでしょうか。

予想



これから3つの映像を流すので予想をしながら考えてみましょう。



(下流での映像)



(中流での映像)

川幅が広くて流れもゆったりしているよ。小さな石がたくさんあるね。

(話し合いの場面)

山に近いけど平地だね。石に丸みがあるよ。流れが速いけど、さっきよりはゆっくり見え



川幅がせまいね。角張った石が多いね。流れが速そうだな。



(上流での映像)



### 指導のポイント

- ① 映像や写真を見ただけでは、上・中・下流の石の大きさの違いをとらえることが出来ない児童には、30cmの定規を活用することで、これと周りの石の大きさを比較させる。
- ② 川のどの部分が上流・中流・下流に該当するのか、明確な決まりを理解できるように、区別の目安をしっかりとおさえるようにする。
- ③ 児童の考えを整理した上で、上流・中流・下流に当てはめさせて考えさせるために、それぞれの位置で石の大きさや形をイメージするようにする。

家の近くにあるかも？

ぼくの家そばにあると思う。



(話し合いの場面)

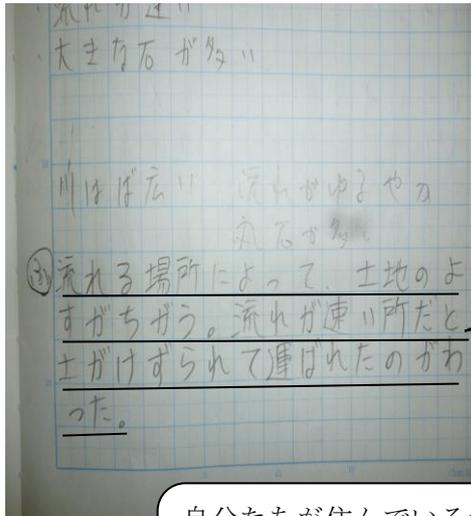


どの位の大きさかな？  
イメージで表してみよう！

(グループ学習の場面)

### 児童のノートの記事より

【児童A】(ふり返りの記述より)



前時の学習をしっかりとおさえていた児童は、映像の中で学習のポイントを理解していたことが、児童のノートから分かる。

他にも自分たちの住んでいる川の様子の特徴を確認し、流れる場所による川の特徴として、共通点や気づいたことを記述する児童もいた。

自分たちが住んでいる地域の川は、全体の長さに対する位置や、その周辺の地形で決まることがわかった。



## 4 成果と課題

本実践より、今までの学習を振り返りながら予想し、友だちの考えを聞き、学び合いをしながら学習を深めることで、場所による違いを日常生活に適用して考察することができた。

場所のイメージがもてなかった児童には、映像を流し、身の回りの物や定規を示しながら、石の大きさを考えるようにした。また、児童に実感を伴った理解を図るためには、地域の河川を扱うと児童の学習への意欲が高まることが分かった。

(白砂修司)